



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp]

INGING NEWS PAPER 2014 VOL.07

6place finish, get points!

レース波乱も石浦6位入賞!

次回シリーズ最終戦、上位グリッドから快走で目指せ優勝!

TAKE
FREE
無料



Race Report Round.6 SUGO 9/28 Final

決勝 2014年9月28日 スポーツランド菅生

SUPER FORMULA SUZUKA 2014 11/8-11/9

Support by cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.07 [インギング ニュースペーパー]

2014年10月発行 通巻7号 発行：株式会社サイバernet 西日本事業部 〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル5F

NEXT RACE

石浦6位入賞でポイントゲット!

荒れるレース展開を掻い潜り、次回シリーズ最終戦“優勝”へ高まる期待。

Get the point in 6 place!



Race Report 決勝 2014年9月28日 スポーツランド菅生 Round.6 SUGO 9/28 Final

天候:晴れ | コース状況:ドライ 251.872 km (3.704 km × 68 Laps)

社の部、仙台市近郊にあるスポーツランド菅生を舞台に戦われたSUPER FORMULAのシリーズ第6戦は、スタート直後からアクシデントが頻出。セーフティカーが2度も導入される荒れた展開となった。P.MU/CERUMO-INGINGの5F14をドライブ、5番手スタートの石浦宏明と、9番手からジャンプアップを狙った国本雄資のドライバー2人は、荒れたレースを戦い抜き、石浦は6位入賞を果たした。ルーティンのピットインを遅らせて中盤トップを快走した国本も、予選順位と同じ順位でチェッカーを受けたい。

金曜日午後の専有走行から、レースウィークを通じて、スポーツランド菅生はドライコンディションに恵まれた。しかも決勝日となった日曜日は朝から好天に恵まれ、秋晴れの空の下、多くのファンが詰めかけ、毎に一度走り行われる。トップフォーミュラの東北決戦を楽しんでいた。朝一番で行われたサポートレースの公式予選や決勝に続いて、午前9時15分からはSUPER FORMULAのフリー走行が行われた。公式予選では5番手に留まった石浦はセッションの終盤で1分の秒前半半を入れ、このセッションでのトップタイムをマークした。一方、予選での進出を狙った国本は、本戦に向けてシフトアップを極めて行ったが、このセッションではまだ納得できるレベルには達しておらず、午後の決勝に向けて、なおマシンインブルーに努めることになった。

決勝レースは午後3時にフォーメーションラップがスタート。1周後に正式なスタートが切られたが、その後、2コーナ一先でアクシデントが発生。いきなりセーフティカーが導入される荒れた展開となった。目の前のグリッドにいたアンドレロッチャー選手がスタートダッシュで出遅れる。行き場がなくなった石浦は、とっさにコースサイドからこれをかわしたが、やはり加速が弱ってしまい、後方から好ダッシュを見せた中嶋一貴選手にかわされてしまい、グリッドと同じ5番手で1コーナーへ戻ってスタートした。一方、9番手スタートの国本も混乱に乗じてセーフティカーをアピールしてセーフティカーラップを終えている。アゲンダで2コーナー前に停まったマシンの回収が終わる。4周終了時点でレースはリスタートとなるが、今度は16番目、またはアクシデントが発生し、2回目のセーフティカー導入となる。ここで各車は一旦ルーティンのピットインを行ったが、チームでは2台同時のピットインは結果的にタイムロスが大きいと判断。まずは石浦をピットインさせた。ピットエリアは大混乱となるが、チームメンバーでカウリング補給とタイヤ交換を終え、石浦をコースに送り出した。ただし、カウリング補給の途中でピットアウトして行ったマシンもめり込んでいくが、カウリングを下げたまま、一先、結果的にピットアウトすることになった国本はピットに立ち上がり、以後は快走をみせている。

2回目のリスタートで、2台のマシンに上手くかわされた石浦は、その後体感的にペースアップを合わせられる格好のタイムが伸びず、第3コーナーでもかわけなかった。それでも、後方からの追いつきペースをしのぎ、ピットインを控えることにした。一方、レースのファステストラップの更新を繰り返しながら2位以下を引き離していた国本だが、やはり250kmのレースの無給油で走り切るには無理。ラスト2周を残してピットインを2度行った国本は、カウリング補給のためピットを出て行くが、これで10位までポジションダウン。最後は、やはりカウリング不足で遅れた1台が再びピットインを受けたい。

2度のセーフティカー導入で荒れた展開となった決勝レースだが、中盤から終盤にかけて国本が示したように、決勝レースにおけるマシンのポテンシャルがどうなるかという点も、次回はいよいよシリーズ最終戦、予選でも速さを発揮してグリッドの上位を獲得し、決勝では、その上位グリッドから快走を見せる。それこそが優勝へのシナリオ。期待は必ずや実現するはずだ。



Driver Number
H. ISHIURA
石浦 宏明



「スタートで、目の前にいたアンドレロッチャー選手が動かなかったため、ホワイトラインの外からかわしていったんですが、やはりスピードが乗らずに一直線中嶋一貴選手に追いつかれてしまいました。それに一度目のセーフティカーが出た時にピットに入って給油とタイヤ交換をしたんですが、もともとセーフティカーは出ないだろうと勝手にスタート時のガソリンの搭載量なんかを決めていたので、やはりここでも少し後れをとってロケット(デュー)選手に先に行かれてしまいました。あと、リスタート時に大嶋(中嶋)大祐選手にも先に行かれてしまったのが痛かったですね。本当は自分の方がペースは1秒以上も速いはずなのに、簡単に抜かれました。そう考えるなら予選で後れをとったのがすべてですね。決勝セプトが速いのは明らかだから、今回の前座では予選セプトをしっかりと意識したい。予選から速さを見せることができれば、絶対に優勝できるはず。そう思って頑張ります!」

Driver Number
Y. KUNIMOTO
国本 雄資



「中盤からトップに立ったのですが、それはたまたまルーティンのピットインを遅らせたから。特に感謝はしていませんが、それでも本番セプトの速さを、改めて証明することができました。実は今回、走り始めのクルマの挙動がすごくおかしいです。でも土曜日のフリー走行から公式予選、そして今朝のフリー走行、決勝と、マシンのセッティングを極めて行ったのが良い方向に向かいました。今回のオートポリスでは本番仕様でライバルに負けていたタイヤに対しては強くもなかった。それを考えると、今回の決勝セプトでは着実にインブルーでできていました。今回は最終戦の最終。予選から速さを見つけて、決勝でも快走して優勝したいですね!」

Team director
Y. TACHIKAWA
立川 祐路



「レースはドラマチックな内容になりましたね。でもチームとしては、特にミスもなかったんですが、ここ普通なレースになってしまいました。2台とも、予選順位はほぼポジションで決まっていますから、大きなポイントとなったのはやはり予選で後れをとったこと。結果的にはそれをすべてでカバーした。決勝レースではピットインのタイミングが、2台のポジションがあまり悪くはなかったから同時に、入れという場面はなかった。だからその時点で、上位にいた石浦も、まずはピットに入れば、結果的にもこれは間違いないから、それまでにはできるだけマシンを早くよう指示しました。彼も頑張った良いペースで走ってくれましたが、やはりあれが第一種ではない。それでも決勝用のセプトは悪くはなかった。ポイントも示すことができました。今回の前座では、先ずは予選で上位に付けて、それを決勝結果に繋げたいですね!」